

9月の植物

ムジナノカミソリ ヒガンバナ科ヒガンバナ属

(学名 : *Lycoris sanguinea* var. *koreana* (Nakai) T. Koyama)

キツネノカミソリはよく耳にする名前です。ムジナノカミソリは初めて耳にする方も多いでしょう。環境省のレッドデータ区分は野生絶滅のEW扱いです。ムジナノカミソリは韓国西南部に分布するヒガンバナの仲間です。日本では宮崎県日向市で認識されましたが、自生地では長い間、確認できず絶滅と判断されました。その後、長崎県対馬、宇久島、野母崎半島で確認されています。私は対馬で開花時期に遭遇したことがあります。対馬は全島に分布しオレンジの花が各所で見られました。その後、日向市でも自生地が再発見されました。

キツネノカミソリの花序は小さく花弁は反り返らずロート状になります。雄蕊の長さは花弁とほぼ同長です。葉の出芽時期は遅く2月後半～3月、球根も小さく、ムジナノカミソリの花序はオオキツネノカミソリよりも小さくキツネノカミソリよりも大きいです。花弁はオオキツネノカミソリと同じく反り返り、雄蕊の長さも花弁とほぼ同長。葉出時期は早い個体で12月下旬、通常は1月～2月です。佐賀県でキツネノカミソリとされていた個体の特徴はムジナノカミソリと同じでした。佐賀県植物目録に記載されている武雄市朝日町、富士市栗並、呼子町小友を訪ねて検討しましたが、朝日町で70～100個体、栗並は11個体、小友は道路拡張工事で絶滅していました。

1.5万年前～3万年前の氷河時代の海面は現在よりも100m～140mほど低く、対馬海峡、東シナ海の深度は80m～100mで大陸と陸続きになりました。この時に旧石器人、動物、植物が日本列島に渡って来ます。ムジナノカミソリもこの時に渡って来たのでしょうか。 (井上 康彦)



武雄市朝日町 2019.8.17



左：キツネノカミソリ
中：ムジナノカミソリ
右：オオキツネノカミソリ



武雄市朝日町 2018.8.28